

学校(所属)名	職名	氏名	年齢	公募校長としての着任年月日
北海道鹿追高等学校	校長	俵谷俊彦	57	令和2年4月1日

1 これまで取り組んできた改革

- (1) 鹿追の課題解決を軸とした総合的な探究の時間「鹿追創生プロジェクト」の開発
- (2) 進学塾のない山間地域や離島における手厚い進路支援のロールモデルとなる「鹿高デジタル進学サポート」体制の構築
- (3) 日本を代表する指導者の指導方法をデジタル共有する「NECメソッドプラットフォーム実証実験」の実施
- (4) 学校単位のアスリート育成から地域主導でのアスリート育成をめざす「鹿追アスレチック・デパートメント構想」の立案・運営協力

2 進捗状況及び成果

- (1) 【鹿追創生プロジェクト】98% ※ 昨年度報告分は省略
 - ・探究専門のセクション「探究推進課」設置(R02)／同プロジェクトのシラバス・ルーブリック完成(R02)／プロボノメンター16名認定(R02)／同プロジェクト年間計画内に設置(R02)／校内最終発表とは別に、「鹿追町高校生議会」での議会提言の実現(R02-)／「鹿追町高校生議会」の本校カリキュラム内の設置(R03-)／廃棄資源「ホエー」を活用したオリジナルクッキーを製作・商品化の実現(R02-03)／同クッキーが鹿追町ふるさと納税返礼品に指定(R04)／環境省ワーケーション事業(鹿追町役場)における高校生と専門家集団との交流事業の検討開始(R03)／高校生によるカナダ料理と日本料理のオンライン交流会(料理教室)の実現(R03)／地元を知りさらなる探究の向上をめざす、教科理科での「とちかち鹿追ジオパークのフィールドワーク」の教育課程編成(R04-)／自由探究プロジェクトを推進する「探究ラボ」の設置・運営(R04-)／鹿追創生プロジェクト最終発表会(学校設定科目「鹿追イノベーション学」最終発表会)を一般町民を対象に実施(R4)／帯広信用金庫主催の「地元高校生による十勝の未来づくり応援プロジェクト」への参加及び成果発表において主催者から高い評価(R04)
 - ・国際探究コースの設置(コース再編により看護学科・コース問題の解決)(R02-)／学校設定科目「鹿追イノベーション学」の設置(R03-)
- (2) 【鹿高デジタル進路サポート】98%
 - ・町との魅力化協定の締結(R01)／同協定により校内WiFi設置・iPad40台設置(R01)／一人一台iPadの活用(生徒、教員)(R03-)／体育館を含めた全教室にモニター及びApple TV設置(12台)(R03-)／全学年全生徒がリクルート「スタディサプリ」を活用(R03-)／Google ClassroomにてWeb上の教室設置(町との協定)(R01-)／休業中全学年にOnline授業の実施(R01-02)／コロナ出停生徒へ全授業のオンライン化(R03)／通常時、自宅待機生徒にオンライン授業配信(R03)／本校生対象の鹿追町オンライン公設塾
 - ・同塾の専用学習スペースの設置(北大、慶応大等のチューター6名、現在塾生34名)(R03)／オンライン公設塾のチューターが14名に増員、塾生40名越え(R04)／公設塾設定により、学習習慣が身に付いた、いつでも相談できて良いと高評価(R03-)／スタディサプリでの課題配信の数が道内トップレベル(月によってはトップ)(R03-)／次年度分掌内に「公設塾・スタサブ課」新設決定(R04-)
 - ・オンラインによるランゲージパートナー制度が始動(R03-)／米国ハワイのワイパフ高校とのオンライン交流(R03-)／カナダ姉妹町ストニブレイン町のメモリアルコンボジット高校とのスプレッドシート活用のオンライン交流開始(R03-)／HSA(北海道スタディアブロードプログラム)にて北大留学生と全学年交流(R02-)／オンラインでの中高連携授業の実施(高校生が中学生に英語授業)(R03-)
- (3) 【NECメソッドプラットフォーム実証実験】98%
 - ・NECプラットフォームで「岡田メソッド」活用開始(R01)／スポーツ庁「Sport in Life プロジェクト」採択決定、事業開始(R02)／同事業においてスポーツ人口増加のための部活動のボーダーレス化の試行(R02)／同事業においてスポーツの科学的アプローチを学ぶアスレティックトレーナー等からのオンライン講義の実施(R02)／同事業において岡田武史氏による直接指導が実現(R02)／同事業においてユーフォリア社のコンディション管理アプリOne Tap Sportsを体育系部活動生徒に導入(R02)／同事業においてスポーツ人口増加のための「タグラグビー」の完全オンライン指導の成功(R02)／同事業の構想の一つ「e-Sports部設立」の手続き開始(R03)／本校のみならず小中学生、社会人への「岡田メソッド」活用の浸透(R03)／同事業のフォローアップとして、「鹿追創生プロジェクト」内スポーツ班(フカイク)が「部活動ボーダーレス化」と「e-Sports部設立」を正式に生徒総会に提案・討議(R03)
 - ・正式に部活動のボーダーレス化(兼部)システム開始及びe-Sports同好会発足(R03)／部活動加入率の上昇(R02: 75% → R03: 81% → R04: 90%)
- (4) 【鹿追アスレチック・デパートメント構想】65%
 - ・一般社団法人Sport X initiativeとNECと連携したアスレチックデパートメント構想(総合型地域スポーツクラブ)の立案・試行開始(R01)／町の総合型地域スポーツクラブのサッカー部門が本校生に対して支援開始(R02)／同地域クラブ主催で高校サッカーチームと小中・社会人との合同練習の開始(R03-)／地域の野球指導の専門家2名が野球部コーチに就任(R02)／サッカーに続いて、陸上セクションを同地域クラブ内で設置(R02)／同地域クラブで100メートルハードル日本記録保持者の寺田明日香氏によるオンライン講習会を企画・実現(R02)／町長へのアスレチックデパートメント(総合型地域スポーツクラブ)設立趣旨及び支援要請を開始(R03)／新たに総合型地域カルチャークラブ(地域部活動)設立への準備開始(R03-)／鹿追ジオパーククラブ及び鹿追芸術クラブ設置の検討開始(R03-)／分掌組織に新課(「部・クラブ改革課」「Special Ed課」)設置(R04-)／町内各少年団、スポーツクラブへの挨拶回り(R04-)
 - ・部活動・地域クラブ移行への検討会の発足(R4)／校内検討会である「未来の校内部活動・地域クラブの検討会」の2回実施(R4)／校外文化・スポーツ関係者10名を構成員として本校教員と協議する校外検討会で

ある「未来の部活動・地域クラブ検討コア会議」を発足。2回の会議実施(R4)

(5) 上記項目の実施により得た他の成果

ア 魅力化向上及び全国募集の開始

- ・入学者数の増加(R02: 28名→R03: 56名→R04: 49名→R05: 52名)
- ・町内中学卒業者の入学者増 (R02: 21名 → R03: 28名 → R04: 34名→ R05: 30名)
- ・町内中学卒業者の入学率の上昇 (R02: 42% → R03: 44% → R04: 55%→ R04: 58%)
- ・全国募集申請への校内の意思共有(R02)
- ・全国募集申請に係る広報及び受け入れ体制整備について町への要請(R03)
- ・町議会への全国募集及び支援予算確保の要請(R03)
- ・地域教育魅力化プラットフォーム「地域みらい留学」登録校申請のための予算確保(R04)
- ・北海道教育委員会より「道外からの出願を受け入れる道立高等学校」に認定(R04)
- ・「地域みらい留学」登録校に認定(R04)
- ・オンライン「全国募集説明会」を4回実施(R04)
- ・東京における全国募集相談会を1回実施(R04)
- ・札幌における学校説明会を1回実施(R04)
- ・札幌市立中学校22校への訪問(R04)
- ・道外中学生に対するオープンキャンパスを2回実施(R04)
- ・道外及び札幌から4名出願(R04)／道外からの生徒3名入学決定(R04)
- ・2次募集で4年ぶりに3名出願(R04)

イ 渉外手段のICT化による2年ぶりのカナダ短期留学の実現

- ・鹿追町役場企画課、鹿追町教育委員会、姉妹町ストニブレイン町役場、本校の2年に渡るZoom会議及びアプリ「SLACK」の活用により、可否の協議及び実施決断に至り、2年ぶりの実現(R04)
- ・メモリアルコンボジット高校における体験授業、日本文化紹介も実現(R04)
- ・生徒のスマホ持参を解禁し、海外でのスマホ活用及びより積極的なコミュニケーションを実現(R04)
- ・関係ストニブレイン町民全員から、英語力及びコミュニケーションの姿勢が過去最高と評価(R04)
- ・R5のカナダ短期留学の早期決定(R4)

ウ 学校改革をすすめるコアチームの確立及び校内組織化

- ・コアチーム「持続可能な鹿高づくり運営委員会」を設置し課題認識及び解決策の実行(R01-)
- ・分掌組織に新たに課(「探究推進課」、「広報ICT課」、「国際交流課」)を設置、種々の命題を解決(R02-)
- ・分掌組織に新課(「部・クラブ改革課」「Special Ed課」)設置(R04-)
- ・次年度分掌組織に新たに3課の設置決定(「働き方改革課」「公設塾・スタサブ課」「論述力育成課」)(R04)

エ 十勝管内のみならず全国における本校活動の認知度向上

- ・地元新聞「十勝毎日新聞」や北海道新聞等による本校の活動に関する記事掲載は20回以上(R02)(R3:22回→R4:32回)
- ・オンライン授業及び庁内公募校長のNHK特集(全道)の放送(R01)
- ・本校公式Facebookのフォロワーが1000名を超過(R04)
- ・本校パンフレットを昨年の8pから16pへと増やし、管内中学生に配付済(R02-)
- ・令和3年度通学圏内の学習塾へパンフレット配付(R03-)
- ・学校説明会での参加者数や学校見学の申し込みが昨年の1.5倍(R02)
- ・R3入学者選抜において、出願者数の倍率が0.8(61名)。入学者は56名(R02)
- ・オンライン学校説明会を4回実施(対面学校説明会を中止)し、参加者はほぼ昨年度と同様(R03)
- ・R4入学者選抜において、出願者数の倍率が0.7(52名)。入学者は49名(R03)
- ・R5入学者選抜において、出願者数の倍率が0.7(52名)。入学者は52名(R04)
- ・学校説明会での参加者数が136名で過去最高(R04)
- ・「地域みらい留学」HPにて、登録校として本校サイトの開設(R04)
- ・Youtubeチャンネルの開設(R04)

オ 生徒の主体的活動の増加

- ・有志生徒が地域の防災グループと組んだ防災プロジェクトの始動(R01)
- ・慶応大と組んでのQOL調査を有志生徒が実施(R01)
- ・有志生徒が総合型地域スポーツクラブのサッカーセクションのロゴ作成プロジェクトを実施(R02)
- ・有志生徒による学校ロゴ作成プロジェクトを実施。パンフレットで周知(R02)
- ・自由探究プロジェクトとしての廃棄資源「ホエー」の活用によるクッキー製作・販売(R03)
- ・e-Sports部設立の実現予定(生徒総会での正式提案(R03))
- ・部活動ポータルレス化の実現予定(生徒総会での正式提案(R03))
- ・姉妹町とのオンライン料理教室の実現(R03)
- ・町内企業とコラボしたポテトアイスクリームの商品化及び札幌パルコでの販売予定(R04)
- ・JCI高校生国連大使に2名選出され、海外の高校生との交流等(R04)
- ・帯広青年会議所主催「とちかち未来デザインプロジェクト」10名参加、各種プロジェクト実施(R04)
- ・生徒による「ホスピタル・クラウン講演会(町民約20名参加)及び写真展」の実施(R04)
- ・生徒による「小学生対象のバスケットボール教室」の開催(R04)
- ・地元の「太田祭」への書道部・写真部の自主的協力(R04)
- ・リクルートのアントレプレナーシッププログラム「高校生Ring」に1名2次審査通過(R04)
- ・札幌啓成高校主催「国際共同研究アカデミー」に3名参加(R04)
- ・部活動加入率の上昇(R02: 75% → R03: 81% → R04: 90%)
- ・生徒の自己肯定感の高揚(数値なし。R3-)

カ 町民の本校理解及び支援の拡大

- ・長年の懸案事項「看護コース問題」が解消。全町議員が新コース「国際探究コース」を支援(R02)
 - 町議員への説明
- ・コロナ休業期のICT活用の成功から町長よりさらなる支援（一人1台のiPad支給）の決定(R03)
- ・オンライン公設塾の提案が町議会を通過し、次年度4月から開始（R03）
- ・町民広報誌「広報しかおい」による3号連続の鹿追高校特集の掲載(R02))
- ・鹿追町高校生議会のオンライン配信(R02)
- ・十勝毎日新聞、北海道新聞を中心に多数の報道(R01-)
- ・北海道新聞全道版における鹿追高校の取組の掲載(R03-)
- ・教育新聞（全道版）における本校の実践の特集（上中下）(R03)
- ・十勝の月刊誌「しゅん」による本校校長の特集記事掲載(R03)
- ・町内小中学校における「鹿追高校コーナー」の設置(R03-)
- ・町内諸中学校における「鹿追高校の最新情報」説明時間（5～10分）の設定(R03-)
- ・町内中学校2・3年生への家庭訪問（希望者のみ）(R02-)
- ・帯広青年会議所5月例会の「持続可能なまちを目指して」パネルディスカッションにて校長登壇(R04)]
- ・町外生の通学補助増額（全額無料）及び寮費の補助増額の決定(R4)

キ 働き方改革（特に連絡調整の短縮化）による生産性の向上

- ・46時間以上の超過勤務者数の大幅な減少(6～3月比のべ数。R02: 116名 → R03: 73名)
- ・時間外在校時間の大幅な減少(6～3月比のべ数。R02: 57h → R03: 38h)
- ・さらに時間外在校時間が前年度に比べ減少(R04)
- ・メールからGoogle Workspace活用への移行による、管理職と担当教員、外部支援者との迅速な情報共有・意思決定の実現(R01-)及び定着(R04)
- ・ペーパーレス化の開始(R02-)及び定着(R04)
 - 生徒への資料配付はGoogle Classroomでペーパーレスが定着
 - 職員会議資料、朝の打ち合わせでの配付資料は全てデータでの提示定着
- ・プロボノメンターをはじめ外部支援者からの講演や生徒との対話が、前年度比15回増加(R02)
- ・コロナ禍の中で対面での打ち合わせが制限される中、オンラインツールの活用により、鹿追創生プロジェクトの中間・最終発表や公設塾のコンセプト作り、Sport in Lifeプロジェクト等、外部との折衝・調整が円滑かつ効率的に実現(R02-)
- ・ストレスチェック集団分析結果によれば、本校総合健康リスクが低い状態、上司の支援、同僚の支援がともに高く、前年度と比較し2年連続向上(R02、R03)
- ・教員のスキルアップ及びミドルリーダーの増加(R01-)
- ・オンライン公設塾開始による教員の働き方改革の促進(R03-)
- ・19:00最終バスの30分前倒しのバス時間に改訂(R03)
- ・外部評価者の導入による改善（北海道大学大学院生による実地調査の受入れ）(R03)
- ・令和3年度の国立大進学者6名（前年比3名増）、立命館APU、専修大、北海道職員合格等、進路実績が向上(R03)
- ・学校部活動と地域部活動の連絡調整の人員の配置及び担当課「部・クラブ改革課」の設置(R04)

3 課題及び解決に向けた方策

- ・【入学者確保】全国募集での広報の強化。Youtubeの配信数の増加（現在9を次年度は15へ）
- ・【入学者確保】町外生徒受入れの環境整備に係る町への働きかけ（新寮建設も含む）
- ・【鹿追AD】総合型地域スポーツクラブに加え、カルチャークラブの新規参入・地域部活動の創設の働きかけ
- ・【鹿追AD】総合型スポーツクラブ・カルチャークラブへの運営資金の確保及び法人化の検討
- ・【働き方改革】シフト制活用の増加（現在管理職2名及び教員1名試行。次年度は50%の教職員活用を目標）
- ・【進路デジタルサポート】チューターと教職員の協働で、さらなる塾生の参加頻度を向上させる。（現在40名、週活用時間1400分/週から、次年度は2100分/週を目標）
- ・【魅力化】Facebook フォロワーの増加（R03: 912名、R04: 1024名、次年度1200名を目標）
- ・【魅力化】鹿高みらい留学コーディネータとの連携及び広報、海外進学希望者支援等の強化

4 成果と課題を踏まえた今後の取組予定

3において記載した内容を、公募校長最終年である令和6年2月末を目途に確実に進めていく。